

やんば

ハツ場ダム

もつくることかどんなにムダ"かって
知って谷欠しいなあ

吾妻馬脱ダム宣言



わたしの名前はショウ。

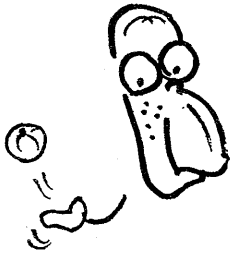
吾妻溪谷にずーっと昔から生えている、ミズナラの樹の精です。

そして、これはイヌワシのクー。そばの崖の上に行く代もいく代も前から
巣を作っています。

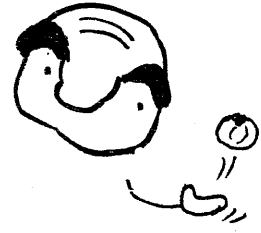
わたしたちの住む吾妻溪谷も、すぐ上流の川原湯温泉も、
まだダムの水の底に沈んでいません。

50年も前に計画されたダムをこれから造る意味が本当に
あるのかどうか、皆さん、どうぞ本気で考えてみてください。

ハツ場ダムを考える会



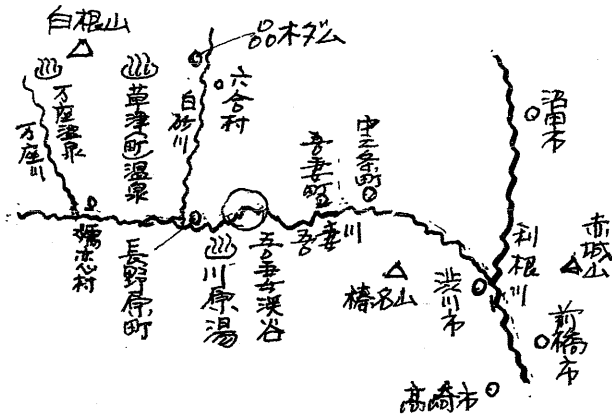
福田・中曽根の 上州お手五・ダム



—— 漫画・ハツ場ダム物語 ——

この話の主要登場人物は、福田赳夫と中曽根康弘。二人は、十余年の時間差で共に高崎高校から東大法学部へ進学し、大蔵官僚に。そして戦後、中央政界に進出し、相次いで内閣総理大臣にまで昇りつめた大物政治家です。二人の選挙区は、共に旧群馬三区。票と権力をめぐって、県内の自民党は福田派、中曽根派に分かれ、「上州戦争」とまでいわれた激しいバトルを展開していました。

このハツ場ダム建設の問題は、二人の足元、旧群馬三区での出来事なのです。

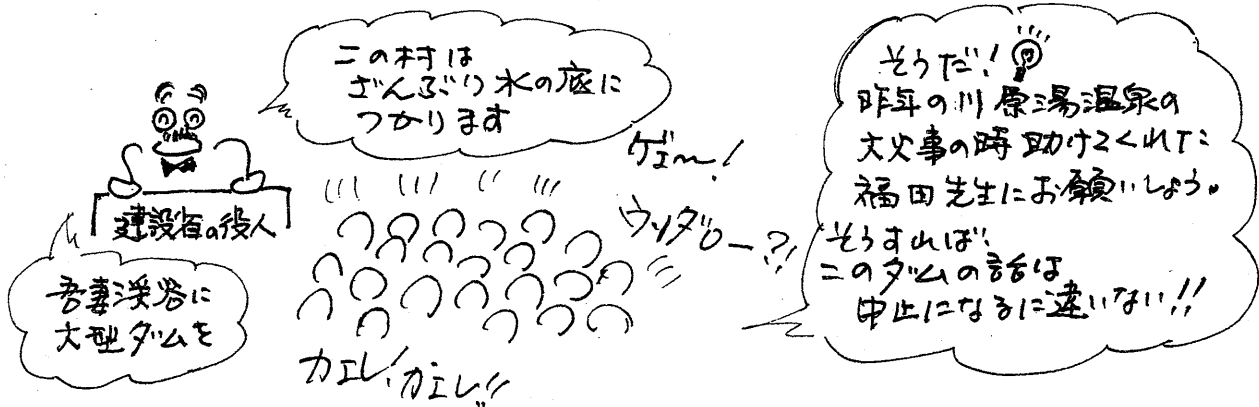


ことの始まりは、もう半世紀も前の、第二次大戦直後。1947年、カサリン台風により、利根川の下流域では、倒壊家屋3万戸、死者1100人という大洪水に見舞われました。

そこで、時の政府は、大至急「利根川治水計画」を作成しました。それは、上流の群馬県内に、下久保、菌原、藤原、相俣ダム（以上、完成）、沼田ダム（住民の大反対で中止）、ハツ場ダムの複数のダムを造るというものでした。

*戦争とその復興のために、森林は大伐採され、上流はハゲ山だらけに。このため自然の保水力（緑のダム機能）が失われ、未曾有の大洪水をまねいた、といわれています。

第二次大戦から7年後の 1952年の初夏のこと、長野原町川原湯地区の住民は集合場に集めらるる。



福田先生
 イヤー、これから日本のために、ダムは絶対に必要なんだ。イン!!

私にお任せ下さい、断固反対します!
 中曽根先生
 800人の老若男女
 '53年2月、ハッ工場ダム建設反対住民大会

しかし、'55年、ダム建設の話題は突然消えて、吾妻川の水はクギヤコンクリートもボロボロに、強酸性の水だということも判明して、

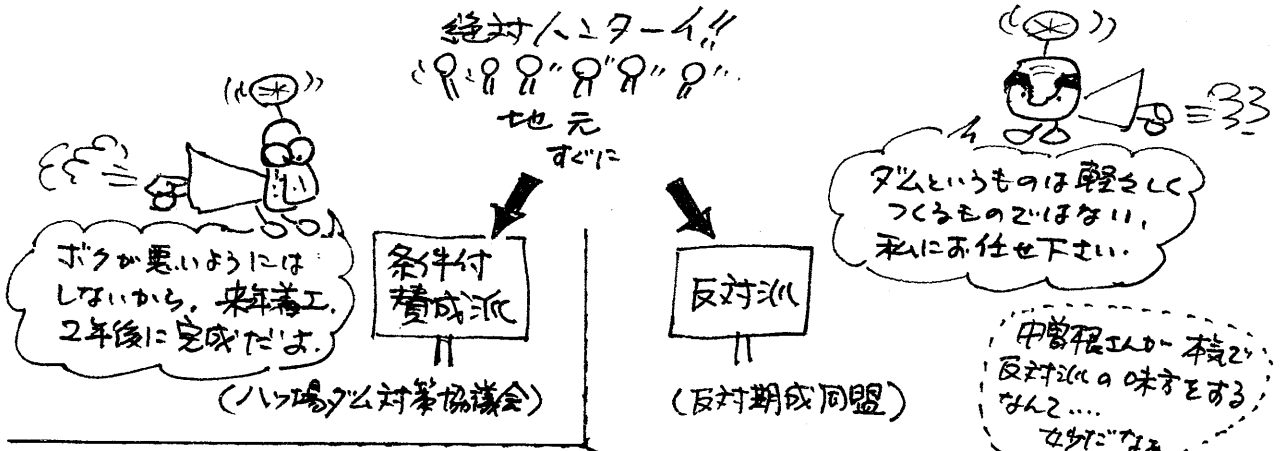
建設省から群馬県に、2とりのダムも落合村吉がやっさりのぞく。

吾妻川を石灰で中和しようよ、ハッ工場ダムを止るんだ!!

オレはこの世で一番ダムが得意な男だ、大才中、大陸でいくつもダムをつくって来たんだ。
 元々、果の企画部長に就任。

'63年、吾妻川支流の強酸性河川に、大量の石灰を投入して中和工場と、その水を貯めるための8本ダムが完成された。

『65年、ハッ工場ダム計画がよみかえる』



同じ'65年、東京の美濃部知事と群馬県庁に神田知事を訪ねて...

東京都民のためにハッ工場ダムをつくって下さい。
 国からいわれていくつもダムはつくったけど、恩恵は下流で、尻ぬぐいはいつも県の仕事だ。地元民を守る法律が必要だ。

しかし、この頃、東京の水需要は頭打ちになってきた。

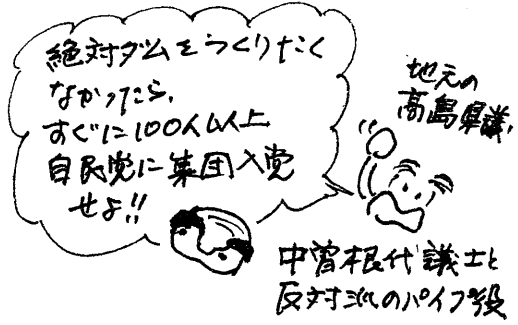
全国の知事会に働きかけ「水特法」成立(73)に動いたのぞく

(たばこの水のことだけ? 水特法にエビデンス?)

この後、ハッ場タムの問題は、県議会でも
足掛け4年、12回の継続審議事項に
なっていたので。



一方地元では...



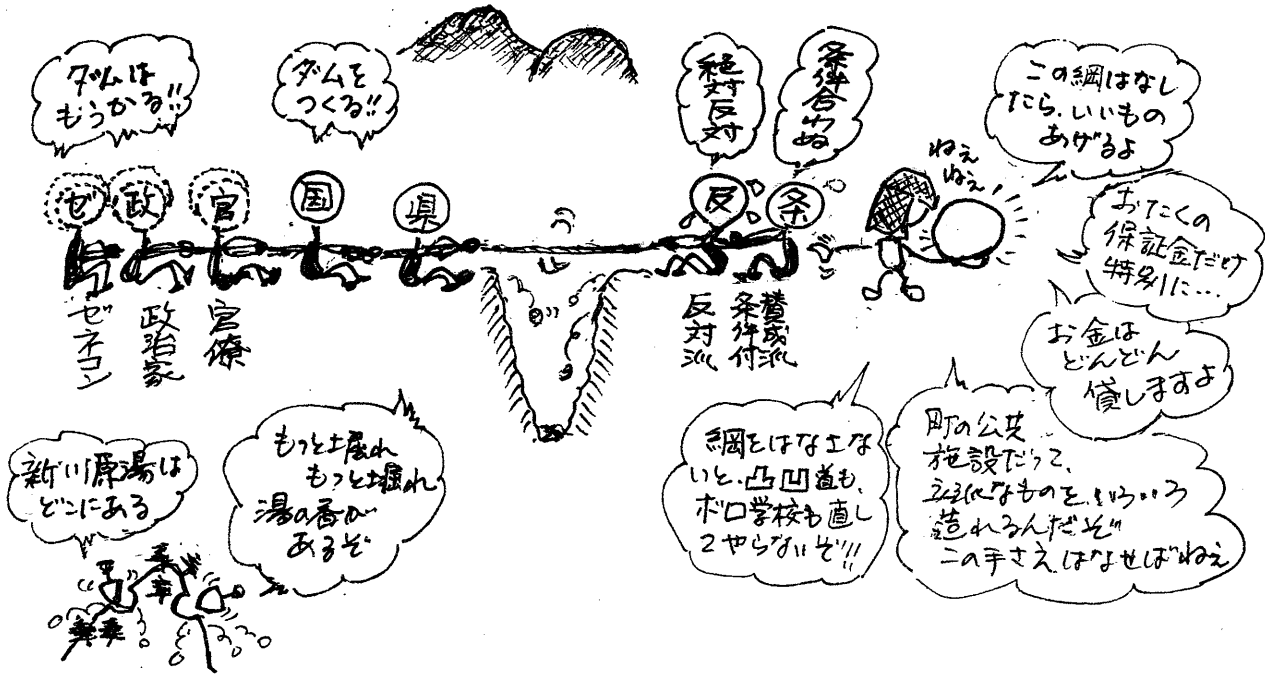
それゆえに、集団入党してみたが...



'69年
県議会は、13回目の審議会でも
ハッ場タム建設促進決議を
自民党議員の全員一致で通す

そして、これからはなんと1/4世紀にも及ぶ
奇妻溪谷をほさんだ(??)

——ハッ場タム綱引合戦——
かたまりまて:



県は3億円で
川原湯温泉の
移転場所を探し

(PIDの年表を参考にしてください)

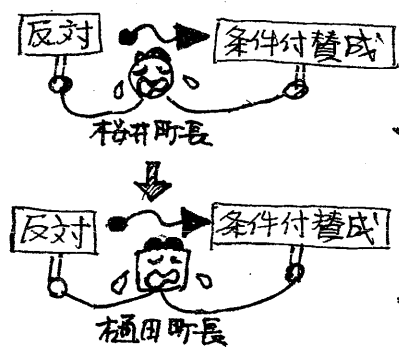
この間、福田・中曽根の両氏は、その政治派閥のトップから総理総裁へと激しいせめぎあいを展開、ハッ工場タムの利権をめぐって同様の争いを繰り返した。

《ハッ工場タムは知事の名をすげ替えた》

判決を申し渡す。
ハッ工場タムを何れ何れも推進するために、さすの神田知事を降ろし、清水一郎氏を押し出すとする



《長野原町の町長も苦しんだ》



補助金まわりのカットで町が手上がる！助けてくれ！

- タム建設反対をかかけて当選した町長も、国や県のおしめつけがきびしく、条件付賛成へと変わらざるをえませんでした。
- 町と国・県は、タム建設に向けて交渉をするため、そのための協定を結んでいきました。

412. '92.長野原町、'94音妻町 タム建設受け入れ

'95年 仕事か遅すぎる会計検査院

以来、タムの関連工事が急速に進展。
→ 2002年秋、長野原町立第一小学校が移転



タムの本体工事のことば、私にお任せ下さいませ!!

(中曽根氏の次女は、鹿島建設の渥美社長の子と結婚。鹿島建設は、県内の多くのタムの本体工事を手がけている)

しかし、音妻線・国道145号線の付け替え工事は全く始まっていません。
• 住民の移転もほとんど始まっていません。(移転先か地すべり地区ともいわれています)
→ これから完了すれば、タムの本体工事はスタートできるといえます。

この先、私たちが橋本音妻溪谷や川原湯温泉かどうなるのかは、皆様の思い次第なのですよ。

ハッ場ダムを造る

メリット

1. 洪水から人々の命、財産を守る
2. 暮らしに欠かせない水を確保する
(平成10年建設省資料「首都圏を支えるハッ場ダム」より)

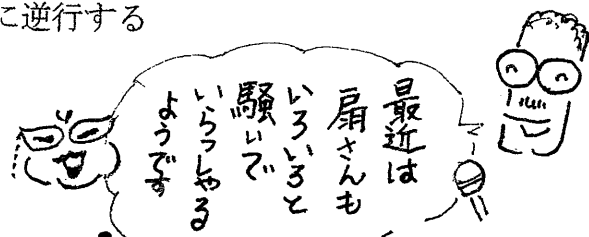
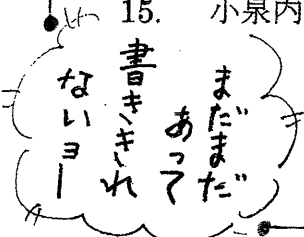
3.
4.
5.



ハッ場ダムを造る

デメリット

1. 強酸性の水、生活排水、農薬の混入した水をダムにためて濃縮することにより、水道の水質悪化
2. 水没面積 304ha、水没世帯数 340 世帯
3. 多額の建設費負担によって、国税、地方税、水道代が上がる
4. イヌワシ、クマタカなど絶滅危惧種をふくむ、貴重な生態系の破壊
5. 吾妻溪谷の美しい自然景観が失われる
6. 吾妻溪谷の自然の洪水調節機能が失われる
7. ひなびた情緒のある川原湯温泉が失われる
8. 水需要の頭打ちで、水あまりとなる
9. 夏期の利水容量が少なく、渇水期には役立たない
10. 建設予定地は地層がもろく、地盤災害、土砂災害の可能性が高い
11. 大規模公共事業により、国や地方自治体の財政赤字が増加する
12. 地震誘発、浅間山噴火の危険
13. 狭い谷あいので、水没世帯の移住、生活再建が困難
14. 縄文遺跡、石仏群、神社、仏閣などの重要な歴史遺産が水没する
15. 小泉内閣の進めている構造改革に逆行する



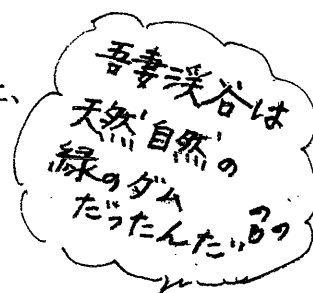
ちょっと待って！よく考えてみると...

ダムが計画されたのは、50年も昔のこと。メリットとデメリットをもう一度いまの視点から見くらべてみました。

1. 治水のこと

山林の保水力はダムをはるかにしのぐ。溪谷は自然の洪水調節機能を備えている。それもこれも、この半世紀の間にわかってきたこと。すでに欧米では「ダムの時代は終わった」（1994年、米国）と宣言され、既存のダムをとりこわし、河川の再生をめざす『脱ダム』の時代が始まっています。

ダム予定地は、火山からの噴出物によって出来たもろい地盤。従来から地すべり、山崩れの危険が指摘されてきました。その上、わが国有数の活火山である浅間山は予定地から20キロの近さ。浅間山噴火の際には、ダムが崩壊し、首都圏の下流域にまで、想像もつかない被害がおよぶことに。

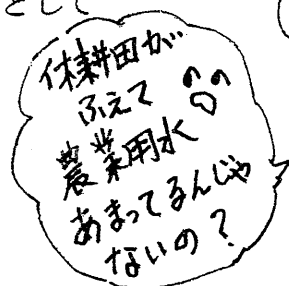


2. 水質のこと

この不況下です。バブルがはじけ、“右肩上がり”の経済予測もはずれました。工業用水も飲用水も、需要は下がり気味。今でも水は足りているのに、この上さらにダムを造っても、水はあまるだけです。

それより心配なのは、水質のこと。ダム予定地は、草津・白根の活火山帯に位置します。周辺には廃坑となった鉱山も。そのためカドミウム、ヒ素などの重金属をふくむ強酸性の水が、吾妻川に流れ込んできます。酸性対策として40年前に、石灰を投入する中和工場と中和生成物の沈殿池（品木ダム）が造られました。それでも中和されるのは、全酸性成分の半分ほど。

さらに、上流の草津温泉をはじめとする観光地からは大量の生活排水、高原野菜の生産地である嬬恋村からは、キャベツ畑の農薬と化学肥料が流れ込んできます。このような水をダムでせきとめると、水分が蒸発する分だけ濃縮し、水質はさらに悪化。飲用水として利用するのは、とてもムリみたい。



3 子供たちに残すのは何？ そのとも。。

現在、日本中にダムは2500余り。さらに計画中のダムが300を超えます。

一方、上流が水没する予定の吾妻溪谷は、「耶馬溪しのぐ・・・」とうたわれた景勝の地。かつて若山牧水が感動した迫力のある自然美を、子供たちに残してあげられないとしたら、この社会って、どこかオカシイ。

溪谷を眼下に見下ろす川原湯温泉は、源頼朝発見との伝承が残る、鄙びた出湯。温泉周辺の森林は、まさに「生きものの宝庫」です。絶滅が危ぶまれるイヌワシ、クマタカ。特別天然記念物のニホンカモシカ。その他、環境庁のレッドデータブックリストに載っている動植物を、数え上げればキリがない。豊かで多様な生態系をこわすことのツケは、いつか人間に回ってきます。

吾妻溪谷も川原湯温泉も、JR「川原湯温泉駅」の目の前。ダム建設を推進しているハズの国土交通省でさえ、ハツ場への旅を呼びかけています。

「一度、ハツ場ダム周辺地域をたずねてみてはいかがでしょうか？

ここに暮らす人々が古来より水や森を大切にし、守り育てて

きたことやその苦勞をしのび、思いを馳せながらこの

マップを片手に四季折々に変化するハツ場ダム周辺

地域を散策してみてください。そして、水について、

私たちの暮らしとダムについて、それからダムの

できる地域の人々について思いを巡らしてみ

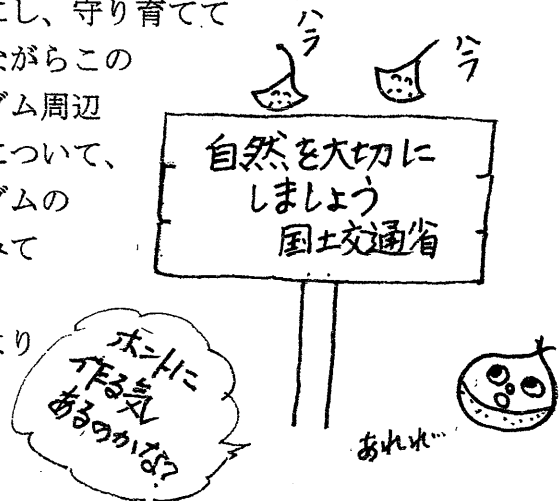
てください。」……「やんば散策マップ」

(国土交通省ハツ場ダム工事事務所発行) より

4 最後にお金の話です

ハツ場ダムには今までに、関連事業という形で、1350億円以上が投じられてきました。本体が完成するまでには、少なく見積もってもさらに5000億円が必要とされています。この費用を負担するのは、国と水利権をもつ地方自治体(東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、群馬県)。試算によると(次ページ資料参照)、国の負担額が2738億円。地方自治体の中でもっとも負担の多い埼玉県が715億円。群馬県は318億円となります。これらの支出は起債で行われるため、その利息を含めるとさらに数字ははね上がります。ちなみに東京都の場合、負担額は653億円ですが、利息を含めると1000億円を超える金額になります。

過重な負担は、ただでさえ財政赤字の国、地方自治体を財政破綻に追い込みかねません。水道料金、国税、地方税も値上がりです。



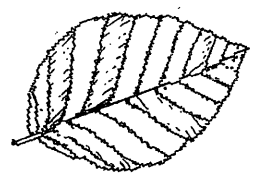
ハツ場ダム事業費の負担内訳 (億円)

	総額	国	東京	埼玉	千葉	茨城	群馬	栃木
1. ダム建設費	1,800	1,057	210	229	140	83	76	5
2. 生活再建	(1)ダム事業	2,004	1,177	233	256	156	92	5
	(2)水特法事業	997	504	170	143	61	26	0
	(3)基金事業	246	0	79	87	38	16	0
合計	5,047	2,738	653	715	395	217	318	10

* ダム工事費は、1985年のダム基本計画の数字しか公表されていないので、その後の工事単価の上昇を考慮して1.3倍の値を乗じた。生活再建事業のうち、水源地域対策特別措置法(水特法事業)の事業費は96年の協定、その他は92年の整備計画素案による。

五十年の協定は進んだけれど、いまだに財布からいけば、国土交通省大臣が

- ・「水問題再論」嶋津暉之次、北斗出版
 - ・「あつたはハツ場ダムの水を飲めず」久慈力次、エッセイ社
 - ・「湖底の蒼鳥」豊田嘉雄、関東建設協会
 - ・「ハツ場ダムの戦い」萩原好夫、岩波書店
 - ・その他群馬洋論社、カネシマ社等の出版
 - ・「ハツ場ダムは悪くない」ハツ場ダムを語る会
- 等々参考にしていただければ。



2002年9月9日 声欄の投書から

川原湯温泉を
残して欲しい
団体職員 渡辺 緑
(東京都練馬区 53歳)
せひ建設を中止して欲しいダムがある。群馬県のハツ場ダムだ。これができる。800年以上の歴史があるといわれる川原湯温泉が湖底に沈んでしまう。東京から電車で3時間ほど。ごちんまりして派手なものはないけれど、文人たちも愛した豊富な湯と、溪谷の素朴な自然、伝統を感じさせる宿や町の人気が、訪れる度にひかれてゆく。50年余りもダム建設に反

対してきて、この数年ようやく補償や代替地の交渉と、建設に向けて断腸の思いで舵を切り直した地元の人たちには、「今更何を」とおしかりを受けるかもしれない。でもあえて「中止して」と言いたい。ケヤキの木など豊かな緑が深流の谷をおおい、湯の里の穏やかな自然と優しい人の心が、山路に群れ飛ぶ色々な種類のチョウ、カモシカや猿、ムササビなどの生き物たちを育んでいる。これらの住み家、命をそっとしておいて欲しい。「水余り」のこと、今ならまだ、無駄なダム建設や自然破壊をくい止められると思うのだが。

今度聞けばすべて官有林であるのだそうだ。私はどうかこの溪間がいつまでも、この寂しさと深みとをたたえて永久に茂っていてくれることを心から祈るものである。ほんとうに土地の有志家といわず、群馬県の当局者といわず、どうか私と同じ心で、このそう大でもない森林のために、永久の愛護者となつてほしいものである。もしこの流れを挟んだ森林が無くなるようなことでもあれば、諸君が自慢しているこの溪谷は、水が枯れたよりは悲惨なものになるにきまつている。
(若山牧水「川原湯から章津を経て渋峠へ」より)

牧水も愛した
渓谷美残して
主婦 井上 晶子
(東京都杉並区 55歳)
若山牧水の紀行をまとめた「新編みなかみ紀行」を読んだ。中でも印象深いのは、牧水が群馬の吾妻渓谷を馬車で行くところである。時は晩秋。吾妻川に沿いながら深谷にさしかかると、日は高く、岬を上げて谷を見下ろす。そして彼は心よりのこの溪谷を好ましく思い、眺めているのである。御者の「これでおしまいです」との声に、先の予定

があるにもかかわらず、もう一度引き返して溪谷を歩こうかどうか迷った末、思い切って足をこめて、川原湯温泉に一泊する。私は、せひこの溪谷を歩きに行こうと思った。往時とは違っているかも知れないけれど、自然は同じ姿のままではないか。早速、図書館で借りた案内書を見てみると、何とここにダムが出来るとある。驚いた。それがハツ場ダムのことと声欄(14日)で知った。牧水が愛した深谷美が、ダムで損なわれないだろうか。後世に自然を残すことこそ、日本が世界に誇れることではないのか。

約80年前、牧水は上のよう一文を残しています



八ッ場ダムの経緯



- 昭和 22 (1947) カスリン台風の被害 (死者 1100 人、浸水戸数 303,160 戸)
- 〃 27 (1952) 利根川改修計画の一環として沼田ダム、藤原ダム、園原ダム、相俣ダム、下久保ダムとともに計画され、予備調査に入る。
- 街をあげての反対運動が盛り上がり、建設省に対し建設中止の陳情書、絶対反対の決議文をつきつける。
- ・吾妻川の強酸性の水質により、ダム計画は白紙に戻る。
- 昭和 39 (1964) 草津の中和工場、品木ダムが完成し、湯川、矢沢川に石灰質中和剤の連続投入を開始することにより水質は改善され、ダム計画は蘇った。
- 〃 40 (1965) 予備調査再開
- 〃 41 (1966) 町議会で絶対反対の決議
- 反対してもできてしまうなら条件付で賛成する派と反対派が県議会に対し、陳情合戦
- 昭和 44 (1969) 県議会で 4 年間 12 回の継続決議を経て建設促進決議
- 建設省、川原湯駅前に「生活再建相談所」開設
- 水没線測量のため杭打ち
- 反対期成同盟は作業阻止行動、抗議行動を行う
- 昭和 45 (1970) 実施計画調査から建設に着手
- 〃 48 (1973) 「水源地域対策特別法 (水特法)」が成立 (神田知事の活躍)
- 〃 49 (1974) 反対期成同盟委員長の飛田氏が町長に当選
- 〃 51 (1976) 利根川水系第三次フルプランに「水没住民の納得を得るよう努力するものとする」との但し書き付で八ッ場ダムが加えられる。
- 〃 8 月 清水知事当選
- ダム推進の清水知事の下で飛田町長も町の事業を進めるために県の提案する再建案について前向きに検討せざるを得なくなった。
- 昭和 58 (1983) 反対期成同盟の目的を「八ッ場ダム建設阻止」から「犠牲を伴う八ッ場ダム建設に反対」へと変更
- 〃 60 (1985) 飛騨町長と群馬県知事は「生活再建案」「進行対策案」について包括的合意に達する
- 〃 61 (1986) 八ッ場ダム建設に関する基本計画が告示される。
- 〃 63 (1988) 建設省は現地調査開始
- 平成 4 (1992) 長野原町長、群馬県知事、関東地方建設局長は「八ッ場ダム建設事業に係る基本協定書」を、八ッ場ダム工事事務所長と水没 5 地区各代表は「用地補償調査に関する協定書」を締結、用地補償調査を開始
- 〃 6 (1994) 長野原地区「尾坂進入路」「久々戸橋」、横壁地区「小倉進入路」の工事着手
- 〃 7 (1995) 「用地補償調査に関する協定書」を締結
- 〃 13 (2001) 水没関係 5 地区連合補償委員会「補償基準」受け入れを決定、以後個別交渉中
- 〃 14 (2002) 第一小学校、林地区代替地に移転

2002年度 方針(案)

- I 現在県内で計画されている倉淵ダム、増田川ダム、戸倉ダムなどに対する運動と情報交換をしながらつながりあい、「群馬脱ダムネットワーク」設立に向けてしなやかに活動していく
- II 「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」の運動と連携を強め、八ツ場ダム本体工事の中止を求めていく
- III 地元住民との情報交換に努め、地権者の権利が損なわれないよう協力していく
- IV 自然環境の保全に努め、特に名勝「吾妻溪谷」の保全を図り、次の世代に引き継ぐことを求めていく
- V ニュース「やんばダム」やパンフレットなどの広報活動を通じてより多くの市民に理解と参加を求めていく(定例幹事会にも一般会員の参加を歓迎します)

八ツ場ダムは現在の計画では、平成20年に完成の予定です。
けれども本体工事は、まだ始まっていません。
次の時代の命のために、八ツ場ダムをストップさせましょう。

「八ツ場ダムを考える会」会員募集中
年会費/個人会員 1000円, 団体会員 2000円
会員にはイベントのお知らせ、会報を郵送いたします

八ツ場ダムを考える会